# 安全データシート

改定日：2021年1月8日

## 1. 製品及び会社情報

製品名　オルトけい酸ナトリウムn水和物

会社名　米山薬品工業株式会社

住所　大阪市中央区道修町2丁目3番11号

電話番号　(06)6231-3555（大阪・本社）
(03)3246-2311（東京）　(0268)22-5910（上田）
(052)504-2221（名古屋）（082)537-0290（広島）

整理番号　AE0162

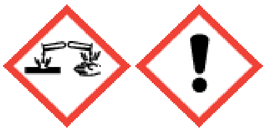
## 2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性
急性毒性（経口）：区分4
皮膚腐食性・刺激性 区分1
眼に対する損傷性／眼刺激性：区分1

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語　危険

危険有害性情報
飲込むと有害
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
重篤な眼の損傷

注意書き
【安全対策】
粉じん又はミストを吸入しないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
適切な保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
【応急措置】
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
飲み込んだ場合：気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと／取り除くこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
吸入した場合：被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
【保管】
施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

## 3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別　化学物質

化学名　オルトけい酸ナトリウムn水和物

成分及び含有量　オルトけい酸ナトリウムn水和物：60%以上
（酸化ナトリウム：約42%、二酸化ケイ素：約22%）

化学式又は構造式　$2Na_2O.SiO_2・nH_2O$

官報公示整理番号(化審法、安衛法)　(1)-508

化学物質を特定できる一般的な番号　CAS RN：13472-30-5

危険有害成分　オルトけい酸ナトリウム

## 4. 応急措置

吸入した場合
空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。安静。半座位。人工呼吸が必要なことがある。
直ちに医師に連絡すること。
ばく露したとき、又は気分が悪いとき：医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合
汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
直ちに医師に連絡すること。
ばく露したとき、又は気分が悪いとき：医師に連絡すること。

眼に入った場合
水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に連絡すること。
ばく露したとき、又は気分が悪いとき：医師に連絡すること。

| | |
|---|---|
| 飲み込んだ場合 | 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。<br>直ちに医師に連絡すること。<br>多量の水を飲ませる。<br>ばく露したとき、又は気分が悪いとき：医師に連絡すること。 |

## 5. 火災時の措置

| | |
|---|---|
| 適切な消火剤 | この製品自体は燃焼しない。周辺火災に応じた消火剤を使用する。 |
| 使ってはならない消火剤 | 情報なし。 |
| 特有の危険有害性 | 燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。 |
| 特有の消火方法 | 消火作業は、風上から行う。<br>周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。<br>火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。<br>関係者以外は安全な場所に退去させる。 |
| 消火を行う者の保護 | 消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。 |

## 6. 漏出時の措置

| | |
|---|---|
| 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 | 作業には、必ず保護具（手袋・眼鏡・マスク、有害粒子用P2フィルター付マスクなど）を着用する。<br>多量の場合、人を安全な場所に退避させる。<br>必要に応じた換気を確保する。 |
| 環境に対する注意事項 | 漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。 |
| 封じ込め及び浄化の方法及び機材 | こぼれた物質をプラスチック容器内に掃き入れる。湿らせてもよい場合は、粉塵を避けるために湿らせてから掃き入れる。<br>残留分を希酸(酢酸がのぞましい)で注意深く中和し、多量の水で洗い流す。<br>粉末の場合は、電気掃除機（真空クリーナー）、ほうきなどを使用して回収する。<br>粉塵が飛散しないようにして取り除く。<br>床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。<br>漏出物の上をむやみに歩かない。 |

## 7. 取扱い及び保管上の注意

| | |
|---|---|
| 取扱い | |
| 技術的対策 | 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。 |
| 局所排気・全体換気 | 局所排気または全体換気を行なう。 |
| 安全取扱い注意事項 | 粉じん、煙、ｶﾞｽ、ﾐｽﾄ、蒸気、ｽﾌﾟﾚｰを吸入しないこと。<br>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。<br>保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。 |
| 衛生対策 | 取扱い後は手などをよく洗うこと。 |
| 保管 | |
| 適切な保管条件 | 湿気を避け換気の良い涼しい場所で保管すること（吸湿性がある）。<br>施錠して保管すること。<br>酸、酸化剤と一緒に保管しない。 |
| 容器包装材料 | ポリプロピレン |

## 8. 暴露防止及び保護措置

| | |
|---|---|
| 許容濃度 | |
| 管理濃度 | 未設定 |
| 日本産業衛生学会 | 未設定 |
| ACGIH | 未設定 |
| 設備対策 | 蒸気、ヒューム、ミストまたは粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。<br>取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。 |
| 保護具 | |
| 呼吸容器の保護具 | 呼吸器用保護具を着用すること。 |
| 手の保護具 | 保護手袋を着用すること。 |
| 目の保護具 | 保護眼鏡、保護面を着用すること。 |
| 皮膚及び身体の保護具 | 呼吸器用保護具、保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。 |

## 9. 物理的及び化学的性質

| | |
|---|---|
| 物理状態 | 粉末 |
| 色 | 白色 |
| 臭い | 無臭 |
| 融点・凝固点 | 該当情報なし。 |
| 沸点、初留点及び沸騰範囲 | 該当情報なし。 |

| | |
|---|---|
| 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 | 該当情報なし。 |
| 引火点 | 該当情報なし。 |
| 自然発火温度 | 該当情報なし。 |
| 分解温度 | 該当情報なし。 |
| pH | 強アルカリ性（2%水溶液のpH13前後） |
| 溶解度 | 該当情報なし。 |
| n-オクタノール／水分配係数 | 該当情報なし。 |
| 蒸気圧 | 該当情報なし。 |
| 密度及び/又は相対密度 | 0.5～0.6 |
| 相対ガス密度 | 該当情報なし。 |

## 10. 安定性及び反応性

| | |
|---|---|
| 反応性 | 酸、強酸化剤と反応する。 |
| 安定性 | 通常の取扱いにて安定 |
| 危険有害反応可能性 | 酸と激しく反応する。<br>亜鉛、アルミニウムに対して腐食性を示し、引火性／爆発性の気体を発生する。 |
| 避けるべき条件 | 湿気、高温、直射日光、混色危険物質との接触 |
| 混触危険物質 | 酸、亜鉛、アルミニウム、強酸化性物質 |
| 危険有害な分解生成物 | 亜鉛、アルミニウムと反応した際に発生する水素（引火性／爆発性） |

## 11. 有害性情報

| | |
|---|---|
| 急性毒性 | 経口 ﾗｯﾄ LD50 1300mg/kg （区分4） |
| 皮膚腐食性・刺激性 | アルカリにより皮膚及び粘膜が刺激・腐食障害を起こす。pH11.5以上であり区分1とした。 |
| 眼に対する重篤な損傷・刺激性 | アルカリにより眼の粘膜が刺激・腐食障害を起こす。pH11.5以上であり区分1とした。 |
| 呼吸器感作性又は皮膚感作性 | 該当情報なし。（分類できない） |
| 生殖細胞変異原性 | 該当情報なし。（分類できない） |
| 発がん性 | 該当情報なし。（分類できない） |
| 生殖毒性 | 該当情報なし。（分類できない） |
| 特定標的臓器・全身毒性-単回暴露 | 該当情報なし。（分類できない） |
| 特定標的臓器・全身毒性-反復暴露 | 該当情報なし。（分類できない） |
| 誤えん有害性 | 該当情報なし。（分類できない） |

## 12. 環境影響情報

| | |
|---|---|
| 生態毒性 | 該当情報なし。 |
| 残留性・分解性 | 該当情報なし。 |
| 生態蓄積性 | 該当情報なし。 |
| 土壌中の移動性 | 該当情報なし。 |
| オゾン層への有害性 | 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。 |

## 13. 廃棄上の注意

| | |
|---|---|
| 残余廃棄物 | 内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。 |

## 14. 輸送上の注意

| | |
|---|---|
| 国際規制 | |
| 　国連番号 | — |
| 　品名（国連輸送名） | — |
| 　国連分類 | — |
| 　容器等級 | |
| 　輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策 | 運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。 |
| 国内規制がある場合の規制情報 | |
| 　陸上輸送 | 消防法の規定に従う。 |
| 　海上輸送 | 船舶安全法の規定に従う。 |
| 　航空輸送 | 航空法の規定に従う。 |
| 応急措置指針番号 | —<br>運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。 |

## 15. 適用法令

| | |
|---|---|
| 化学物質管理促進法(PRTR法) | 指定化学物質に該当しない。 |
| 毒物及び劇物取締法 | 毒物及び劇物に該当しない。 |
| 消防法 | 危険物に該当しない。 |
| 労働安全衛生法 | 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物に該当しない。 |

## 16. その他の情報

参考文献

16615の化学商品（化学日報社）
産業中毒便覧（医歯薬出版）
GHSの挑戦（化学工業日報社）

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報　データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。